

# 銀漢亭日録



伊藤伊那男

7月17日(火) ▼仕事休みとして、今日も京都。七時過ぎ、「珈琲所コメダ

珈琲店」にてコーヒーとトースト。快晴。東京では本日、私の第三句集

「然々と」の発送。四条烏丸に八時半から陣取り、長刀の出発を待つ。

十基ほどの巡行の出発を見てホテルに戻り、荷を持って今日宿泊の「相鉄

フレッサイン京都四条烏丸」。町へ戻って再び鑑改めと、四条河原町の

辻廻し。最後の船辨通過まで見る。十三時過ぎ、祇園の「花咲」で昼食。

體から始まったなかなか充実した料理。十五時まで。八坂神社の神幸祭ま

での間、大谷祖廟の待合室。八坂下の喫茶店などで涼む。十八時の三基の

神輿の出陣を送り、西陣の居酒屋「神馬」に。若鮎の塩焼き、鰻などの刺

身、ずいきの煮物、鰯と茄子、特大車海老、鰻寿司、鯉ベリコンなどな

ど。あと向かいの西陣京極の中の「鳥どり」。水茄子、鶏刺しなど。

18日(水) ▼ホテルでゆつくり。九時、「高木珈琲店」でモーニングセット。

今日も極暑。十四時過ぎ、東京に戻りそのまま「銀漢亭」に入る。仕込

み。皆川丈人、文弘さん来店。「三水会」五人。娘婿の斎木君、昔の職場

仲間八人で。通夜の帰り。阪西教子さん、小川洋さん。

19日(木) ▼黒岩徳将さん幹事で本阿弥書店の千倉さん、仏留学の送別会。

十二人ほど。入れ替わりに「銀漢句会」あとの十九人。私の句集出版の祝

いとてヴィザクリコ二本開けて乾杯して下さる。

20日(金) ▼「萬句会」選句。あと九名店。営業二十一時までとし、二十一時

半、小野寺清人さんと、千葉克彦さんの車二台に八人分乗し、気仙沼へ向

かう。到着まではぼ睡眠。五時過ぎ、岩井崎の夏霧の中の幻想的な朝日

を見る。六時、気仙沼港の鰻の水揚げを見る。カジキマグロやクロマグロも

揚がる。七時、市場前で朝食。あとクラシックなジャズ喫茶「ヴァンガー

ド」にて珈琲。天井まで津波が来たと聞く。

フェリーで大島に渡り、亀山山頂。十時、海開きを見る。市長を紹介して

いただく。龍舞崎に寄り、故千葉薫さん宅訪問。大島汽船経営の千葉さん

はかうじて津波を逃れ、高台に家に新築。「伊那男先生に一度来てはし

ら」とおっしゃっていたと、今年訪ねて来たもの。ところが、四月に八十八歳で逝去された。仏前に合掌。千葉家では、以前訪問の

折りと同じ、キリンラガービールとまんぼう、鮑その他の刺身など用意し

て下さっていて、献杯する。

十三時過ぎ、小野寺和人(一砂)さん宅訪問。庭にテントが設置してあり、すぐバーベキューバーティールに。まず、特大の帆立貝。そこへ仙台の小野寺信一さんからの栄螺、北海つづ貝、蛤、北寄貝の特上品の宅急便が到着。仙台「利助」の牛舌も！その頃、電車で来た仲間、気仙沼港にあつた銭湯「亀の湯」の元ご主人・齋藤克之さん(「銀漢」会員)その他も集まり、二十人ほどの大バーティールとなる。その後、家の中で、一砂さんの煙草、山盛りの海胆、鰻と十六時頃まで酒盛りは続く。宿の「石田屋」へ入りすぐに夕食。平日、あいなめの刺身。海胆だけ満載した舟など。身動きもできないほどの供应にあずかる。唐沢静男君も久々の旅で同室。二十一時にはぼたり寝てしまう。

22日(日) ▼五時過ぎ起床。風呂、朝食。ビール。孫が生まれたのでひと足

先に帰るといって唐沢君を送る。十時、食事処桜田にて句会、十三人。五句

出し。あと昨夜の宴会でお会した牡蠣養殖のヤマヨ水産小松武さんを訪

ね、舟で養殖場の案内をしていただく。大島に架かる橋の下も航行して

らう。一旦、一砂さんの家に戻り、お別れのビール。清人、一砂、克彦さ

んと港で別れ、気仙沼へ。魚市場で買い物、大船渡線で一ノ関、新幹線

で東京へ。

23日(月) ▼店、一茶研究のアメリカ人、デイビットさん来店。今井肖子、

阪西教子、黒岩徳将さんなど。「演劇人句会」七人。

24日(火) ▼十一時半、「威亭酒店」。「萩句会」の方々が私の句集出版記

念のお祝いランチに呼んで下さる。花束、祝い金なども。相沢文子、対馬

康子さん。山崎祐子さん「風」時代の仲間と。「問句会」七人(藤森莊吉

さん)。洋酔さんの「ひまわり句会」あと九人。私の句集出版祝いにシヤ

ンパンで乾杯して下さる。

25日(水) ▼「難句会」十一人。ヴィザクリコで私の第三句集出版を祝つて

下さる。ほかは閑散。

26日(木) ▼大澤妙子さん、江戸川区の俳句仲間と四人。「月の匣」水内慶太

氏、新潟帰りの六人、など。

2827日(金) ▼「金星句会」。

2827日(土) ▼十時前の新幹線にて軽井沢。駅は霧の中。しなの鉄道にて小諸。

「こもろ・日盛俳句祭」へ。小諸では早速「筑蕎麦 刻」へ。田舎の大盛

り。十三時半より句会。小島健、窪田英治氏と一緒のクラス。シンボジウ

ム、小バーティールあと、例年行く「花むら」。奈良から来た「南河」の桃

さん他五名。山田真砂さんと。二十二時には寝る。小諸グラントキャッ

スルホテル。

29日(日) ▼ゆつくり起床。八時半、朝食。雨上がり、徐々に晴れていく。

同人集の選句など。十一時半、「筑蕎麦 刻」今日はさらしな大盛り。麦、羽久衣、井蛙さんもう飲んでる。十三時半より句会。小島健、中西

夕紀さんと。十五時半、「北軽井沢句会」の車二台迎えに来て下さり、一

斗、井蛙、麦、羽久衣、政三、まほで婦恋村の柴山つぐ子家へ向かう。日

帰りで洋酔、展枝、いづみ、中野智子、川島秋葉男さんも合流。いつもな

がらの一大会デンバーティールとなる。一時間半飲談のあと、五句出しの

句会。約三十名。一時間半ほどで大きく済ませ、二十一時五分の新幹線

へ。恒例ながら、北軽井沢句会の厚いおもてなしに感謝。

30日(月) ▼同人集選句急。店、堀切君のバリ時代の友人達五人ほど。バリ

へ留学する千倉さんなど。「銀化」の梅田津さん、峯尾文世さん四名、勉

強会。ふらりと来店した声優のトビー上原さん、句会見学に来るなど。

31日(火) ▼神保町駅で武田花果さんと同人集の選句稿渡す。店は超閑散にて

二十時半に閉める。帰宅して桃子と酒盛り。四方山話。

8月1日(水) ▼同人集選評。彗星集選評書いて九月号終了。店「宙句会」

あと十六人。「きさらぎ句会」あと七人(私の句集出版にヴィザクリコで

乾杯して下さる)。水内慶太さん「すしの弥助」の鰻寿司、穴子寿司など

沢山持つて来て下さる。「宙句会」に振る舞う。「きさらぎ句会」はてる

緒さんのちらし寿司あり、絶品！

2日(木) ▼発行所、山崎祐子さん「りいの」グループに句会会場貸し出し。

あと七名店にて親睦会。あと「十六夜句会」終わって店に七名。小川洋、

竹内宗一郎さんなど。

3日(金) ▼あ・ん・ど・うクリニック。今日は血液検査も。店「大倉句会」

あと十六人。

4日(土) ▼十時、発行所にて運営委員会。昼、「大戸屋」の豚カツ。十三

時、湯島の全国家電会館にて「銀漢本部句会」。五十二人。あと「はなの

舞」にて暑気払いの会。三十数名参加。

5日(日) ▼「春耕同人句会」。あと暑気払いの会、三十人ほど。あと、池内、

窪田氏など十名はもう一軒。このあと第一日曜は「俳句大会」などの

行事が入っていて十二日まで出席できない。

6日(月) ▼麦さん月一回のアルバイト初日。うさぎさんフアローしてくれる。

麦さんを囁き客多数。毎日新聞森さんうさ。

7日(火) ▼伊那北高校同期の竹中君。神田生まれの友人と来店。竹中君は

日本ハウズイングのナンバー2に立身して退任。気仙沼旅行の反省会。小

野寺清人さんが帆立貝、海鞘、石清水八幡宮の鯖鮓、鳥賊その他の食材を

用意してくれる。旅行のメンバーなど十人ほど集合。

8日(水) ▼台風襲来中。発行所「梶の葉句会」。店、閑散。風雨強まって

おり、十八時四十五分、閉める。帰宅すると能登の撮影から宮澤が戻って

いて食事。

9日(木) ▼「天為」編集部、暑気払いの会六人。「極句会」あと十四人。

大住君久々。ヴィザクリコで乾杯。

10日(金) ▼閑散の一言。二十時、閉めて数人で「ふくの鳥」で飲む。久々、

ホッピー。これから六日間の夏休み。

11日(土) ▼エッセイ、「俳句あるある」の料理ページの原稿など。ひと

月前に本棚が崩れてそのままに、解体修理。汗流す。夜、京都の亡妻の

従姉妹来宅。女流画家で京都造形芸術大学教授、川村悦子さん。火鍋他の食

事会。

12日(日) ▼家族は八景島シーパラダイスへ。第五回本にまつわる俳句大会

選句。本棚の修理がまだ続き、散歩をかねて補強材を買いに。夕食の用意

も。

13日(月) ▼久々の休暇を満喫している。角川「俳句」十月号の俳句基礎用語

辞典の解説。原稿五枚ほど執筆。強烈な雷雨。夕方、買い物をして夕食の

ステーキ他用意。孫の高一、莉子がソウルに短期留学している同級生を訪

ねて数日行っているか？ と言ひ、母親は即座にOK。父親は戸惑う。結

局、十五日出発となる。

14日(火) ▼快晴。十時過ぎ、岩野園科で定期点検。奥園に詰めていた銀が

無くなっている。ああ、また金がかかる……。本屋、スーパーマーケット

ト廻つて戻る。今日はネイリストが来ていて長女の仲間何人か。夕方から

ヘアメイクの中川さん来てカットして貰う。二家族はとも来て、中川さん

も一緒に夕食会に。

15日(水) ▼終日家。家族は甲府の宮澤の母上訪問と。休暇中やろうと決め

ていたこと全部終了。

17日(金) ▼発行所「萬句会」あり選句。あと九人店。水内慶太氏、「すしの

弥助」の穴子、鰻の太巻を土産にきて下さる。閑散にてゆつくり話。二十

一時半、閉める。帰宅すると山城ママ二人来ていて酒盛り中。結局二十四

時まで一緒に飲んでしまう。

1918日(土) ▼休養。夜、莉子ソウルから帰宅。

1918日(日) ▼食材買つて店へ搬入。十七時半、亀戸「すしの弥助」。(金曜日に

水内慶太氏が来店した折り、鈴木忍さん一家と食事をするが、来ないか、

と。たまたま居合わせた天野小石さんとも誘われ、銀座のワインバー経営の

ご夫婦もいて大人七名、子供一名。料理は出てくる出てくる。特に鰻のス

テーキ、刺身、のどくるの煮付……と出色。あと西大島の「ジエイクラ

ブ」にてウイスキー。ともかく至れり尽くせりの接待を受ける。